

公益財団法人日本バスケットボール協会

2024 年度 7-6 月期事業方針

2023 年 8 月、沖縄県他で開催された FIBA ワールドカップ 2023 において、男子日本代表チームがパリ 2024 オリンピックの出場権を獲得した。続けて女子日本代表チームも、2024 年 2 月にハンガリーで開催された最終予選において、激戦を制して同オリンピックの出場権を獲得。JBA としては、男女日本代表チームがオリンピックで活躍することにより、多くの人々に夢と希望、勇気と感動を与えられるものと確信し、チームが強化活動に専念して万全の態勢で本番に臨めるよう、全力で後方支援を行う。併せて大会に向けた機運を醸成するため、バスケットボールの価値をさらに高める活動も積極的に行っていく。

また、当年度は今後の大規模国際競技会の日本開催に向けた誘致活動およびそれに合わせた計画的かつ継続的な育成・強化活動を推進し、日本全国に存在感を示せるような JBA100 周年記念事業の立案を目指すほか、急速に少子化が進む中、バスケットボールファミリーを拡大する上でも非常に重要であるファーストスポーツ・生涯スポーツ・女性参画に関する施策や暴力暴言・ハラスメント等の撲滅に向けた施策にも、都道府県協会（PBA）をはじめとした関係団体との連携を強化して精力的に取り組み、登録者数の増大に努める。

🏀 事業方針 🏀

- ① パリ 2024 オリンピックにおける日本代表の活躍を通し、広く国民に夢と希望、勇気と感動を与え、「バスケで日本を元気に」する
- ② バスケットボールファミリーの拡大を目指し、新規登録の増加、登録の継続、支える環境のサポート・拡充に注力するとともに競技環境の整備を進める

🏀 重点実施事項 🏀

- ① パリ 2024 オリンピックにおける日本代表の躍進に向けた強化試合の実施及びサポート体制の拡充
- ② ジャパン・バスケットボール・スタンダード（JBS）の中間レビューと JBA 創立 100 周年（2030 年）を見据えた施策プランの更新
- ③ 世界で継続的に戦える日本代表の競技力向上に向け、一貫通貫の指導理念に基づく次世代の代表選手の強化・発掘・育成の推進
- ④ 暴力暴言等ハラスメントの根絶の実現のため、指導者向け/PBA 向けを始めとする各種研修を充実させ、予防活動を推進
- ⑤ バスケットボールファミリー拡大に向けたファーストスポーツ/生涯スポーツ/女性参画の推進
- ⑥ 業務改善と幅の広い情報発信に繋がる ICT 技術の導入、活用と DX 化の推進
- ⑦ FIBA 主催の大規模国際競技会の日本開催に向けた誘致活動の推進

🍎 主要活動 🍎

1. 関連組織との連携

(1) PBA、Bリーグ、B3リーグ、WJBL、各種連盟、協力団体等との連携強化

- ① PBA 連絡会、全国専務理事連絡会等を通じた組織基盤の強化、D-fund による運営支援および活動推進
- ② 日本社会人バスケットボール連盟（JSB）、全日本大学バスケットボール連盟（JUBF）の事業推進へのサポートおよび組織基盤強化に向けた規程整備の指導等
- ③ 日本障がい者バスケットボール連盟（JIBF）加盟団体の活動推進および JIBF 事務業務のサポート
- ④ 協力団体（全国高体連専門部、全国高体連定通制部専門部、日本中体連、全国高専連合会専門部、全国専門学校連盟、スペシャルオリンピックス日本）との定例会議の実施および活動連携協力
- ⑤ 全国/ブロック/都道府県のアンダーカテゴリー（U12/U15/U18）における活動の推進および会議体の実施
- ⑥ ブロック協会およびブロック事業における補助および連携強化

(2) 登録推進および普及活動

- ① 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備
- ② 普及施策の検討・推進・実施
- ③ 登録システムの管理・運用および改善
- ④ PBA 向け CMS サイトの開発、導入による PBA サイトの UI・UX 改善サポート

(3) 一般スポーツ団体ガバナンスコード対応への指導およびサポート

- ① PBA、WJBL、B3、JSB、JUBF におけるガバナンスコード対応への指導およびサポート

2. 事業戦略

(1) 「JBS2021」の推進と「2030 年 JBA100 周年」に向けたビジョンの策定

- ① JBS2021 に掲げる 2024 年達成目標レビュー
- ② 2030 年に向けたビジョンの作成

(2) SDGs、ESG などの社会課題解決への貢献

(3) 日本代表、JBA 各種プロパティのブランディング

(4) バスケットボール環境における DX 推進

3. 日本代表関連

(1) 全カテゴリー共通

- ① 男女 5 人制・男女 3 人制における、Japan's Way のアップデートを含めた強化方針のより深い浸透を目的とした、アンダーカテゴリー代表と A 代表のコーチ・スタッフの連携促進
- ② 可能性をもった若い選手をトップカテゴリーへ引き上げていく一気通貫による中長期的な選手育成・強化体制の推進
- ③ より強固な海外ネットワークの構築による日本国籍を有する有望長身選手等の発掘推進

(2) A 代表

- ① パリオリンピックに向けての強化体制推進
- ② 一気通貫としてのトップ～アンダー代表が連携・連動する体制を構築し、中長期的な視点で選手育成プログラムを遂行
- ③ トップリーグ含め年間試合数と代表活動の調整並びに国際強化試合の確保
- ④ 日本国籍を有する海外在住の選手発掘と、帰化許可申請に関する整備の働きかけの継続

(3) アンダーカテゴリー代表

- ① アンダーカテゴリーの指導者育成への注力、国際大会出場による選手の経験値向上
- ② 大型選手の強化、ユーティリティプレイヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動

(4) 3x3 代表

- ① 3x3 と 5 人制のトップ選手（帰化選手含む）を共有する強化体制のあり方の再検討
- ② 世界のトップチームがひしめく欧州を中心とした強化活動の増加および可能な限りの大会参加の推進

4. 国際関連

(1) FIBA/FIBA Asia と密な連携維持

- ① FIBA 本部および FIBA アジアオフィスとの強固な関係継続
- ② 国際移籍/FIBA 公式大会関連等の登録業務の円滑化
- ③ 男女アジアクラブ選手権に向けた連携強化
- ④ 訪問、会議（オンライン含む）等による情報収集・意見交換等

(2) 日本代表チーム支援

- ① パリオリンピックおよびワールドカップ（男子 2027、女子 2026）に向けた世界強豪国との強化試合の調整等

(3) 他国 NF との連携強化

- ① 既存のパートナーシップ提携国（ドイツ・オーストラリア）との関係強化
- ② 新たなパートナーシップ提携国の模索、他国との交流推進

(4) 国際交流・協力事業に向けた関連団体との連携強化

- ① スポーツ庁、外務省、JOC、JICA 等との事業展開の検討
- ② 在外日本国大使館、駐日外国公館等との交流

5. 育成関連

(1) 中長期視点および一気通貫に基づく競技力向上に資する施策検討

- ① 各カテゴリーにおける競技力向上に資する施策を検討
- ② パリオリンピック後のテクニカルレポートの作成
- ③ Japan's Way の更新

(2) 年代別育成方針の構築とシステムの確立

- ① マネージャー会議・コーチ研修を通じた都道府県育成センターの活動支援
- ② ブロック DC や講習会等を通じた選手発掘指標の周知やインテグリティや保護者講習等のプログラム提供
- ③ マンツーマンディレクター会議や各種大会を通じたマンツーマン推進の取り組みの継続
- ④ 育成情報を体系的に整理し、効果的な情報発信と共有機会の提供

(3) エリート選手を指導するコーチ教育の確立

- ① 各カテゴリーのエリート選手を向上させるために、指導者向上の方策を検討・実施
- ② 講習会・研修会の実施にあたって内容・周知方法論の検討・確立

6. 指導者関連

(1) コーチライセンス制度の質の向上と改定に向けた取り組み

- ① 新たなコーチライセンス制度構築に向けた取り組み
- ② コーチデベロッパーの質の向上と人員確保に向けた取り組み
- ③ コーチライセンス別の適正なコーチ登録者数の検討および改善に向けた取り組み

(2) コーチ登録者数拡大に向けた施策

- ① 対象者別（女性コーチ、若手コーチ、アシスタントコーチ）の各施策の検討と推進
- ② ファーストスポーツ推進（キッズ関連事業、学校体育）に向けた取り組み
- ③ 都道府県指導者養成委員会の基盤整備および支援・協力体制の構築

(3) コーチのウェルビーイングを考える機会の創出

- ① コーチのウェルビーイングに関するアンケートの実施
- ② ウェルビーイングに関する研修会実施に関する検討
- ③ ウェルビーイングに関する内容を反映したカリキュラムの検討

(4) コーチのコミュニティ形成

- ① メンター制度の設計と実施
- ② コーチの指導場所の確保
- ③ 都道府県におけるコーチカンファレンス（総会）の実施提案

(5) コーチングやスキル・戦術など多岐にわたる情報の発信・共有

- ① 研修会の内容検討・提案
- ② コーチライセンス別研修の作成・運用
- ③ バスケットボールカンファレンスの実施に関する検討

(6) 指導現場におけるインテグリティの確保

- ① 再教育プログラムの実施・運営
- ② 再教育プログラム研修内容の充実
- ③ インテグリティに関する研修内容の更新

7. 審判関連

(1) 審判・審判インストラクターライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの継続構築

- ① ライセンスに応じた講習会プログラムの継続構築
- ② 審判員のレベルアップにつながるインストラクターライセンス制度の見直し。インストラクターの指導を通じた競技規則の理解・審判技術の向上
- ③ 全国統一の評価基準によるライセンス認定、評価の実施
- ④ A 級・B 級審判員の活躍推進
- ⑤ 各リーグの将来構想を見越したトップリーグ担当審判員のレベルアップに向けた研修の実施

(2) 審判登録者拡大および多様性受容のための施策

- ① 女性審判員のライフプランに対応した環境整備
- ② U18、U22 審判員の環境整備
- ③ 競技者、指導者のライセンス取得推進を通じた競技の理解促進
- ④ 審判間の相互尊重、審判の役割への尊重推進
- ⑤ 審判活動の魅力、競技規則の普及と理解促進のための発信（JBA によるウェビナー実施、映像資料の充実）

(3) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

8. 競技運営関連

(1) 日本代表戦/各種大会の価値向上および安定的な大会運営

- ① JBA 主管大会における効率的な大会運営の追求
- ② FIBA 主催試合の円滑な大会運営の遂行
- ③ 全日本選手権の各ステークホルダーと連携した露出拡大および大会方式の検討および発展的ベニュー確保
- ④ Jr.ウインターカップの安定的な運営
- ⑤ 全国ミコの競技方法の検討および発展的ベニュー確保
- ⑥ JBA 主管大会のチケット収入の追求と券売プロモーション計画の策定
- ⑦ JBA 主管大会の戦略的・安定的なベニュー確保

(2) 各種大会の管理・サポート業務

- ① 競技会委員会の機能充実と各種競技会の管理体制の整備

- ② PBA 競技委員会の活動（要項整備、国内競技会申請の徹底等）に対する支援体制の充実
- ③ JBA 以外の団体が主管する全国大会（国スポ、インターハイ、全中等）の運営支援・連携の強化
- ④ 競技会委員会における競技会カレンダー調整機能の整備
- ⑤ 競技環境の充実に向けた各種規程の整備
- ⑥ バスケットボール用器具規格やユニフォーム規則の整備・見直しを通じた競技環境の充実

(3) TO/スタッツ/コミッショナーの強化・育成・指導体制の確立（3x3を含む）

- ① JBA および都道府県の TO 委員会組織体制の強化
- ② 都道府県における TO の普及育成に向けた取り組みの強化
- ③ TO マニュアルと TO 基礎講習（e ラーニング）の全国への浸透
- ④ 国内 TO ライセンス制度の整備および運用
- ⑤ TO インストラクターの養成を通じた都道府県 TO 講習会の活性化
- ⑥ 全国/ブロックにおける TO インストラクター講習会/研修会の実施
- ⑦ 国内におけるスタッツの定義および方針の策定
- ⑧ 国内主管大会におけるコミッショナー権限の明確化と設置大会の基準設定
- ⑨ FIBA TO/スタッツライセンス取得へ向けた仕組みづくり

(4) 3x3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

- ① 日本選手権の大会価値向上、PBA における予選大会の開催支援
- ② 特に若年層（U12、U15、U18）および U23 世代の競技普及に向けた各種活動の強化
- ③ 競技者数の増加に向けた 3x3 登録制度の方針策定と推進

(5) U18 年代の競技環境を競技・事業の両輪で戦略的に発展

- ① U18 カテゴリーにおける全国/ブロック/都道府県においての競技会および普及やプロモーションなどの方針策定
- ② U18 日清食品リーグの中長期計画策定と運営
- ③ ウインターカップの中長期計画策定と運営

9. コンプライアンス関連

(1) 暴力行為等通報窓口の適正な運営

(2) 暴力・暴言・ハラスメント行為等の未然防止と適正な懲罰

- ① 予防
 - ・インテグリティ委員会を中心に方針・コンテンツを作成し、暴力・暴言・ハラスメント行為等の抑止につながる各種施策を関連グループと連携して実施する
 - ・前年度に実施した「U12 カテゴリー保護者アンケート」の結果をふまえた施策を立案し、実行に移す
- ② 懲罰
 - ・PBA 等を含めた裁定／規律委員会での懲罰の適正化・迅速化を図る
- ③ 研修等の実施
 - ・PBA 等が主体となり、指導者・保護者向けの研修等を通じてコンプライアンス意識の啓発・醸成を図る

(3) より効力のある関連規程類の整備

10. 広報・プロモーション関連

(1) バスケットボール界全体の露出強化

- ① 各カテゴリー日本代表の価値向上・露出拡大に努める
- ② とりわけ、パリ 2024 オリンピックをフックとした男女 5 人制代表に関する認知度・価値向上に寄与する露出拡大に努める
- ③ 天皇杯皇后杯、ウインターカップ、U18 日清食品リーグをはじめとする JBA 主催・主管大会の価値向上に努め、

出場選手等のみならず、各種ステークホルダーに対する満足度向上に寄与する

- ④ 3x3 の競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化を行う
- ⑤ Bリーグ/WJBL/PBA 他、各種団体等と連携した ALL バスケ体制での広報連携を実現する

(2) バasketボールの普及振興および競技者・指導者等の登録推進に寄与する広報活動

- ① 全国の「する」「みる」「ささえる」「携わる」方々に対する速やかかつ適切な情報の公開・伝達、および満足度向上を図る
- ② 映像、静止画・テキスト・過去大会の記録等の当協会所有の素材財産を効果的に利用し、各種情報のコンテンツ化を促進する
- ③ JBA 創設 100 周年記念事業 (2030 年) に向けた広報コンテンツ等の企画検討の開始

以上